

**第492回 9月28日開催
出席委員（50音順・敬称略）**

荒巻 裕	伊藤 芳明
大村 英昭	木下 明美
黒田 勇	櫻井 美幸
森 輝彦	倉光 弘己(書面参加)

**テレビ番組 「映像04' 偽証～福井・女子中学生殺人事件～」
7月18日(日) 24時45分～25時45分 放送分**

委員の主な意見

* 大変有益な作品で、久しぶりにぐいぐい引き込まれるドキュメントだった。まだ最終的に冤罪と確定していない元服役囚の青年と家族の苦しみを克明に追っている姿勢は、評価している。しっかり追跡を続けて、どのような決着につながるのか報じてほしい。

* 地裁と高裁で判断が分かれるというのはよくあることだが、高裁の判決を最高裁が支持したというのは結構重いと思う。

「偽証」というタイトルを掲げている以上は、偽証であるということをおある程度納得させるような内容でないと。偽証をしたとされる暴力団員の証言がなく、説得力を欠いている。

* 長野のサリン事件のときの河野さんについても、各マスコミは謝罪をしたが、この事件についてマスコミがどうしていたか、その検証というのか、マスコミ報道の自己批判というのか、マスコミ側が作る番組だから、そういう要素があるべきだと私は思う。

* 番組を見る限り1審無罪がなぜ2審で逆転有罪になったのかが理解できない。そのことをきちんと説明できているとはいいがたい。この番組の問題点はそこにある。

* テレビは不思議だ。毎日放送の映像'04のシリーズはすばらしいけれども、毎日放送とは言わないが、テレビ全体として、一方でワイドショーがあり、ある意味で人権侵害がある。基本的に80年代の半ばまでテレビは人権の擁護者だったが80年後半からは人権の侵害者の側に回って、両方とももちろん幻想だと思うが、この2つがぶつかり合いながら同じメディアの中であるのは不思議だと思う。

* 膨大な裁判記録をもとに取材をして、事件発生から裁判まで再現をして非常に迫力があつたと思うが、なぜ高裁が有罪にしたのか、ナレーションだけでは説得力がないのではないか。

* タイトルは偽証だが、この親子に偽証ということに対する怒りが少なく、なぜか淡々としている。刑期を終えた青年と父親が静かに立ちあがろうとしているのを描いているが、タイトルとちぐはぐなところを感じる。

* 万が一これが本当に冤罪だったとすると、警察と検察はその責任をこのように取らなければならないといった情報も必要だったのではないか。一般視聴者は番組を見終わってしまうと、その続報をいつ見ることができるかわからないので。

委員の交代

深井麗雄委員が6月に退任。新たに就任した毎日新聞大阪本社編集局長の伊藤芳明委員が紹介された。

テレビ・ラジオの10月編成について

テレビ、ラジオの10月編成の概要・特徴について、編成局長とラジオ局長がそれぞれ報告した。

日本民間放送連盟賞の受賞作品について

平成16年度の日本民間放送連盟賞で、毎日放送がラジオ報道番組優秀賞1本、ラジオCM優秀賞2本を受賞したことを、ラジオ局長が報告した。